

## オンライン講演会を視聴して

宮國芳美

更生保護法人 日本更生保護協会主催 オンライン講演会

### 不登校を大人はどう理解するか？ －「生きる力」はきみの中にあるということ－

講師 立正大学心理学部教授 鹿嶋真弓先生

講師プロフィール 元中学校（理科）教員、筑波大学院カウンセリング科学修士、逗子教育研究所所長、高知大大学教授、立正大学教授、カウンセリング心理学専門

令和5年8月23日（水）午後3時からサポートセンターで保護司9人参加で視聴。

その前日、私はサポートセンターで自分のスマートフォンで視聴。

宮古管内でも不登校児童生徒が多くなったと聞き、演題に興味を持ち、時間に縛られることなく個人のスマートフォンでも視聴できるとのことで申し込んだ。配信期間は8月22日（火）10時～28日（月）22時までの1週間、期間中は都合のよい時間に視聴でき無料で資料も送ってくれるのでありがたい講演である。配信初日に早速スマートフォンで配信メールを開くと順調に流れ視聴できた。家のパソコンでも開けたので2回視聴した。

鹿嶋先生の話に共感し、大変いい講演だったの一部紹介します。

#### 第一部 不登校を大人はどう理解するか？

中1ギャップと言って、中学校に入った途端、急に勉強が難しくなり、学習環境も変わり、精神的ストレスを抱える生徒が多くなり不登校の生徒が増える。不登校の子は朝登校時間帯に腹痛を訴え学校を休む。病院で診察して貰うと病気ではないと診断されるので特効薬もない。その繰り返しにならないように3日目には何らかのアクセントをおこし、ちょっとの時間でも学校に来れないかと声かけする。4日目も休むとずるずると休んでしまうケースが多い。スクールカウンセラーが学校休みがちな子や親に「無理して学校に来なくていいよ、来させなくていいよ」と指導したとき、不登校の子が一気に増えた。その時、自分は学校にいなくてもいい存在なんだと思いこむ子もいるので、「無理して学校に来なくていい」との指導には疑問をもち、専門家は信じない方がいいとも思った。

不登校の考え方、状況のとらえ方としてネガティブな見方（困ったこと、悪

いこと) からポジティブな見方へ (必要なこと、大事なこと) と子どもを理解すること。周りの大人が不登校のレッテルをはらず理解してあげることや友達からの声かけを推奨することが大事である。「なぜ学校に来れないのか」等の不登校の原因究明の姿勢から解決のための変化を起こす姿勢が大事。

子どもたちが深夜徘徊をして警察や少年補導員に保護されたら大変だと思わないで、保護することで危険な事から守ってあげているんだとの意識改革。子どもたちへの支援は、子どもたちが自分自身の意志によって生きていけるように子どもたちのもつ力を育てることである。「してあげる支援」ではなく、「できるようにするための支援」、物事は失敗してもさせることが大切。子どもの失敗を恐れてはいけない。失敗から学ぶことも多く、そこから成長もする。赤ちゃんが歩き始めるとき、よく転ぶが起きあがって歩き出す、その繰り返しで上手に歩き出すのと一緒である。

<自分の願いをかなえるためのオーダー表>

①子どもに自己決定の場を与える

②子どもに自己存在感を与える

役割がある・自分の存在や活動が認められる

③共感的人間関係を育成する

本音で語り合える・互いに認め合う関係がある

## 第二部 「生きる力」はきみの中にある

<陣痛は赤ちゃんも苦しい> ある助産婦さんの話の一部

子宮の収縮は約1分間、その間赤ちゃんは思いきり首を絞められ息ができない、1分たてばまた子宮がゆるむ。また陣痛が来れば1分、息ができなくなる。陣痛の間隔はだんだん狭くなる。この陣痛に耐えられなければ赤ちゃんは死ぬ。まさに命がけで陣痛をおこすホルモンを出しているのは赤ちゃんで、一番いいタイミングで自分の生まれてくる日(誕生日)を選ぶ。生きるか死ぬかの狭間の中、小さな体で必死に生きようと頑張っている。つまり、お腹の中にいる赤ちゃんでも「生きる力」を携えて生まれてくる。子どもを授かることも、出産も母親にとっても赤ちゃんにとっても奇跡の連続である。

この話を聞いたとき、あの苦しい痛い陣痛は母親が引き起こすものと思って、もう耐えられない、帝王切開にしてと思いながら普通分娩で3人の子を産んだ記憶がよみがえった。2番目の子の時、陣痛が弱いとのことで促進剤を打ったが、その時は生まれず、翌日普通に生まれたので、自分の誕生日を選んで生まれて来たことを実感した。

## 感想

### <平良ヒロ子>

不登校の原因を追求するのは難しいことを再確認すると同時に手立てをアプローチすることの大切さも実感できた。なかでも「人間は倒れた分だけ立ち上がる」、「成長とは変化すること」の言葉が心に残っている。子どもたちにどう寄り添っていくかも不登校を理解することになるのではないかと考えた。

### <上里啓美>

不登校の子どもの特徴を学ぶことで彼らの不安や悩みを理解できる。実際、不登校＝なまけものとする大人は少なくない。何らかの原因で登校しない、あるいはしたくてもできない状態にあるということを理解し、子どもたちの感情に寄り添い、生きる力を身につけさせるため、私達大人がどう対応していけば良いのか、学校復帰までの解決のヒント、支援の基本的な考え方を学ぶことができた。ネガティブな見方からポジティブな見方へ考え方を変える充電期間、放電期間、まさにその通りである。これからの時代、多様性を受け入れることが重要だと思う。不登校の子どもたちだけでなく、悩んでいる家族にも寄り添うことも大切。